

## ■ B F 連盟戦記 7 ウルビダ編

『B F 連盟の人気企画、ゲストを招いてのスペシャルマッチ！ 今回の参加者は『麗しきブルームーン』の異名を持つアスリート、ウルビダ——！』

「そんな異名は初めて聞いたが……まあいい。すぐに終わらせてやる」

バトルファックを普及するための組織《B F 連盟》の企画に招かれたのは、男勝りな強気さを前面に押し出した女性・ウルビダ。姿を現すと、異名通りの蒼く艶のある髪、そして身体にフィットするピッチピチのスーツで強調された年齢不相応の大きな胸や曲線に喝采が送られる。

ちなみに異名は《アレス》次元での設定なので、彼女《ウルビダ》は初耳だったりするのだが……それはともかく。

どこか達観した、人ならざる者のような雰囲気を持つウルビダ。強気に鋭い視線を見せる彼女だが、今回招かれたのは彼女に対する罰でもあった。

『世間を騒がせた、あの自称宇宙人《エイリア学園》によるテロ事件！ 電波ジャックで破壊行為が放送される際、エイリア学園メンバーに彼女の姿があったのを覚えている方も多いでしょう！ あの罪の賠償として、我々 B F 連盟へお話が届いた次第です！』

サッカーを通してのテロ行為で世間を騒がせたエイリア学園。そのトップチーム・ジェネシスに彼女も所属しており、電波ジャックによる全世界中継で世界を震撼させた一人であった。

彼女らの凶行は止められて事件は解決したものの、被害は莫大。主犯者だけでは補填できず、様々な損害額や罪の清算のため、今回のスペシャルマッチ強制参加にいたった次第だ。

登場時の喝采も単なる容姿への評価だけでなく、知名度や評価——良し悪しはともかく——などの影響があったのだ。

なお、エイリア学園がそうしたように、今回の試合は世界規模でライブ配信される。B F 連盟関係施設、アングラ界限、ネットなどに限定されているとはいえ、性的行為を晒すのは本来 B F 連盟としても望むところではないのだが……エイリア学園による被害規模を考えれば、罰としては軽すぎるくらいである！

一部から本気の怨恨を視線と言葉でぶつけられるウルビダだが、彼女自身は陰のある表情のまま。

罪を受け入れてはいるが、テロはあくまで親代わりの存在に命令されての行為。直接被害に遭っていない者には以前と変わらぬ強気で冷ややかな姿勢は崩さない。

『今回参加されるウルビダさんですが、通常のセックス、そしてBFの経験は？』

「っ?! そんなこと、ど、どうでもいいだろう!」

『いやいや、ちゃんとインタビューには答えてもらわないと! これも罰なんですから!』

「く……! ……普通の経験は……まあ、普通だ。だが、貴様ら人間のように気味の悪いことはしていない!」

『なるほど、普通のセックスは一般程度ですがBF経験はナシと。身体能力はかなり高いようですが、自信のほどは?』

「すぐに終わらせると言っただろう……!」

『経験量の割にかなり強気! これは積極的なファックか期待できるか? なお、ウルビダさんが敗北した場合、更に罰ゲームとして本名なども公開されます。個人情報賭けたスペシャルマッチ、いよいよスタート——!』

テロの共犯を行ったとはいえ、屈辱的な質問に答えさせられて気が立つウルビダ。

試合が始まり、感情をぶつけるように対戦相手の少年を睨み付ける。

(要は出させればいいんだ……)

ぎゅうっ! ぎしっ! ぎちゅっ! ずりゅっ!

【うっ……!】

『速い! 一瞬で近付いたウルビダ、相手をロープ際に追い込んだ! 激しい足コキで責め立てる——!』

「ふん……所詮はこの程度か」

淫闘を受けること自体が罰であるため、対戦相手や観客に付度をする必要はない。

触れられる前にウルビダから動き、足で少年のペニスを踏み、ただ射精させるためだけに動かしていく。

足コキの経験などほとんどないが、ウルビダの知識では、これを続ければ相手がいつか射精するはず。

実際に我慢汁が滲み出し、追い打ちに冷やかな言葉を投げかけるが……しばらくしても少年がなかなか射精しない。

「おい、早く出せ! いつまでその臭いものを垂れ流して……」

【いやいや、そんな雑な足コキじゃイケないって。……そろそろチンポ臭、効いてきたかな?】

「なっ?」

(しまった、防御を——)

ぎゅむんっ♥ くりくりくりくりっ♥

「んおっ♥♥ おおおおんっ♥♥」

『足コキで責めていたが、ここで隙を突かれてバックを取られた！ 激しい胸揉み責めに今度はウルビダが喘いだ——！』

身体能力で勝るために有利なポジションを取っていたウルビダだが、決め手に欠けていたところに隙を突かれる。

実は少年は責めを受けつつ、我慢汁の臭いでウルビダを発情させつつ様子見していたのだ。

ペニスの匂いによる発情で、今は乳首が敏感になっている——長く単調な責めもあって動きが鈍ったのを見て、一気に切り返し。背後から爆乳を驚掴みすると、狙い通り即座に牝の音色が搾り出されたというわけだ。

【もう乳首ビンビンじゃん♪ そんなにチンポ臭が効いた？】

「これは……試合前の、興奮剤のせいだ……チン……そんなものなどっ♥♥」

【あ、興奮してるの認めるんだ？】

くりんっ♥

「おんっ♥♥」

『言葉責めに獣声で返事してしまうウルビダ！ 試合前の微量な興奮剤では説明がつかない発情っぷり！ やはりチンポ臭に疼いているのか——？』

もみっ♥ もみゅんっ♥ むにゅううっ♥

「くっ♥ 貴様ら、好き勝手な……ことをおっ♥」

半端な経験量が祟ってか、興奮剤の影響なのか、確かに意識すればするほどペニスの匂いで下腹部が熱くなっているような感覚を得てしまう。

だがウルビダも過酷な訓練を受けたエイリア学園のエリート、《ハイソルジャー》の一人。

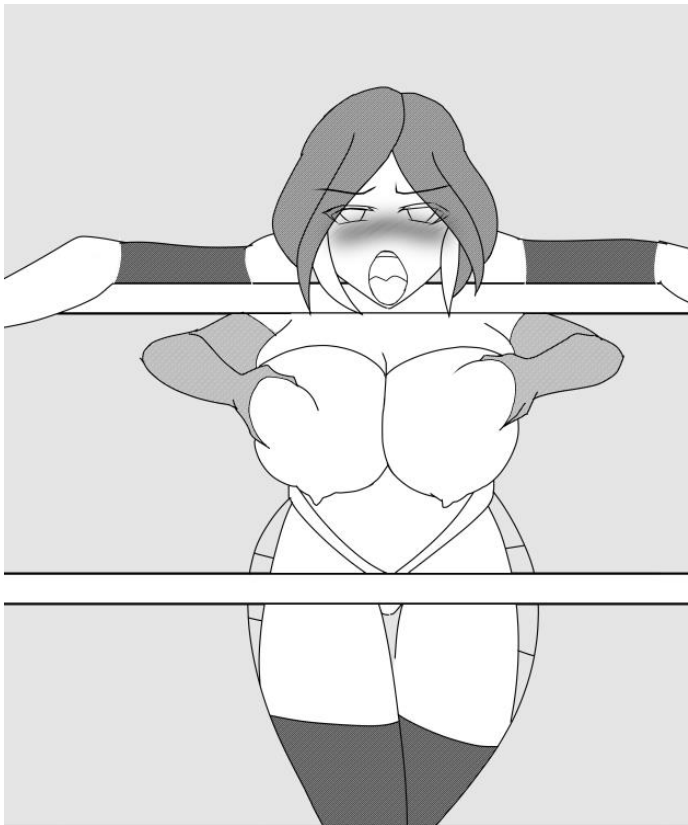
罰は受けても、辱められることは受け入れられない。

相手と観客、無数のカメラの前で、事件当時のように人外さながらの闘志を剥き出しにする。

「罰はいくらでも受けよう……だが、下衆共の玩具にはならん！ 貴様ら人間如きに……負けるわけにはいかないっ！」

——……

—————



もみもみもみもみっ♡ くりくりくりくりっ♡  
ぱあんっ♡ ぱあんっ♡ ぱあんっ♡ ずぱああんっ♡♡

「おっ♡♡ お♡♡ おおほっ♡♡ お————♡♡  
おおおお————~~~~~っっ♡♡」

『強気な発言から一切反撃できずヤラれ放題！

エイリア学園のハイソルジャー、  
胸揉み立ちバックに手も足も出ない——！』

(そ、そんな♡♡ この私が……こんな男にいい♡♡)

【強化スーツ使ったりガニメデなんとかっていう技でハンドしてた  
エイリアにも正々堂々勝つからねー♪】

後ろから胸を握られていたウルビダ。しかしそこから碌な反撃もできず……BF仕様に改造されたエイリアスーツはスリットから簡単に局部を露出させ、そのままの姿勢で犯され、胸を揉みしだかれたまま肉根を味わわされていた。

なお、エイリア学園は広義のドーピングなど、卑劣な手段を多用した。

それに触れて挑発する少年に合わせるように、カメラ越しに見る被害者の本気の罵倒、無関係な者の野次のコメントが流れてウルビダを煽り立てる。

——こいつらのせいで大怪我負わされたんだ、これぐらいしてくれないとな！

——アニメ見てる時に電波ジャックであの爆乳見せ付けられてから、この光景をどっだけ妄想したことか。

——ずっとコレが見たかったんだよ！

「ぐうっ♥♥ 貴様ら……ああっ♥♥」

（報いとはいえ……このようなああ♥♥）

『おっと、ここで避妊薬が取り出された！ 膈内射精前に飲ませられるか？ なぜかウルビダは嫌がっているが、情けをかけられるのを拒んでいるのか？』

第一戦はハンデとして避妊薬アリのルール。

相手の少年は膈内射精する前に小さな錠剤を飲ませようとするのだが、ウルビダは哀れみを受けた気になることや、そもそも本当に避妊薬なのか疑わしいという理由で顔を背ける。

「ほっ♥♥ 施しなど♥♥ 受けな……♥♥」

ぎゅむうっ♥ ごぶうんっ♥

「ほおおんっ♥♥ おっ♥♥ おぐっ♥♥ んんんっ♥♥」

『上手い！ 相手へのケアも忘れない！ ここは連盟選手がプロ精神を見せました！』

が、更に強い揉み搾りと子宮への突き上げで喘がされ、そこへ巧みに薬が投げられる。

避妊できるのならそれで良いのだが、もしそれ以外の薬であったら……何より、拒んでいようと結局流されざるを得ない淫闘の快楽に、ウルビダの子宮が戦慄を覚える。

「ふっ……♥♥ ふ——♥♥ ふう……っ♥♥」

（性行為が♥♥ ただの繁殖行為が♥♥ これほどっ♥♥ これほどまでに——♥♥）

【心配しなくてもいいのに……ま、あっさり感じてくれたから簡単に飲ませられたけど♪ ハイソルジャーって言ってもチンポには感じまくりなんだねー♪】

ぱんっ♥ ぱんっ♥ ぱんっ♥ ぱんっ♥

「だっ♥♥ だまれっ♥♥ 感じてっなどっ♥♥ 私はあ♥♥」

【もうイキそうでギリギリなんですよ？ こっちも出すから、チンポ制裁でがっつり犯罪者のアクメ面晒してねー♪】



ぱんぱんぱんぱんっ♡ もみもみっ♡ ぎゅむんっ♡  
ずぼずぼずぼずぼおおおっ♡♡

「おっおっおっおっおっおっ♡♡

わっ私はハイソルジャーだ♡♡♡

こんなものでっ♡♡♡ いかないっ♡♡♡ なにもっ♡♡♡

なにもかんじてなどおっおっおっおっおっ♡♡♡」

ドッビュウッ♡♡ ビュルルッ♡♡

ビュビュ———ッ♡♡

「おっおっ♡♡♡ おっ♡♡♡ お———っ♡♡♡

おほおお———~~~~~っ♡♡♡

こんらのっ♡♡♡ なんともっ♡♡♡

らんともおっおっおっほおっおっおっおっおっおっ♡♡♡」

『膣内射精炸裂——！ オマンコゴールに強すぎる一点を叩き付けられたウルビダ！ これで精力オーバー！ 第一戦は無残な膣内射精KO敗北——！』

「わ……♡♡♡ 私が……負け……♡♡♡

こんな……バカ……な……っ♡♡♡」

激しい肉突きの中、必死に堪えていたウルビダだが……身体が浮くかと思える強烈な放精を受け、ついに目を剥いて絶頂。耐えていた分の快感で一気に押し上げられる官能に吞まれてしまい、倒れるまでもなく敗北を言い渡されてしまう。身体は少年によってロープにもたれさせられ、カメラの前で発情しきった肉体を晒されてしまうのだった。

(ハイソルジャーたる私が……♡♡♡ 快樂……などに……っ♡♡♡)

## ◆第二戦 純情ウェア

第一戦は無残な敗北を晒したウルビダ。更なる罰ゲームとしてブルマに酷似したユニフォーム「じゅんじょうウェア」を着せられて第二戦を強いられる。

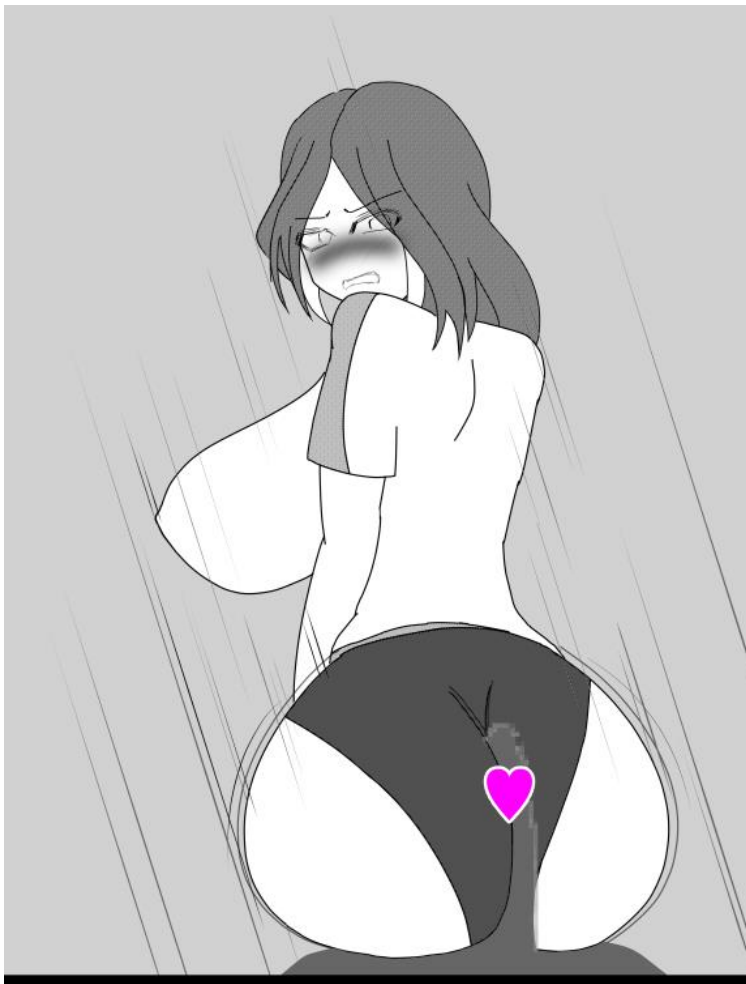
紺色のブルマは時代錯誤もいいところであり、肉感的なウルビダにはサイズがギリギリ。そのミスマッチがまた背德的であり、男たちの目を愉しませていた。

「何なんだ、このユニフォームは……！ くそ、下着がハミ出る……！」

ぎちっ♥ むちっ♥

『爆乳も凄かったが尻も凄い！ じゅんじょうウェアでハミパンしそうなブルマ尻に観客は大興奮！ ではこのブルマ尻を晒した状態で第二戦を戦ってもらいましょう！ 試合開始——！』

過去に全国規模で女学生に着用させられていたとは思えない衣装に困惑するウルビダ。しかし相手は容赦なく仕掛けてくる。やはりブルマ尻を狙ってくるが……そこを逆手に取り、ロープ際に追い詰められたと思わせて立ち位置を逆転させる。



「そんなに見たいのなら……ふんっ！」

ずむうんっ♡

【うそっ！ あ、この……おおっ！】

『うまく合わせた！ 後ろを狙うのに対しヒップアタック！

ロープに押し付けて尻コキ責めだ——！』

「どうだ、これが欲しかったのだろうか？」

ぎゅむっ♡ ずりっ♡ ずりゅんっ♡ ぶるんっ♡♡

『ブルマ尻をペニスに押し付けて激しく揺らす！

爆乳も爆尻も踊る、凄まじい蟹股ドスケベダンスだ！』